二十歳のころ

D班 小島悠太郎 千住百香 鶴田翼

はじめに

◇研究動機

大学入学当初から「コロナ禍」という言葉と共に過ごしてきた私たちにとって、緊急事態宣言下に起業し、業績を伸ばしているという事実が衝撃的だった。起業の経緯や島田様ご本人の経歴、考え方などから、今の私たちのすべきことを伺いたいと思った。また、「ヒト」と深く関わる業界ということで、数年後の就職活動に向けて必要な資質などをご教授いただきたく、インタビューを申し込んだ。

◇ご紹介

人材育成会社であるSeed合同会社並びに新卒向け就活サロンHEEC'S salonの代表、島田貴行様。アメリカ生まれ、日本育ちの中国人。高校時代までは日本で過ごし、大学は上海外国語大学へと進学。卒業後は日本へと戻り、そのグローバルな視点を活かして新卒人材紹介会社に入社。独立したのち、4月7日のコロナ緊急事態宣言発表後にSeed合同会社を設立。これまでに累計2500人以上のキャリアサポートを行う。

インタビュー内容

◇会社・仕事について

◆人材育成会社を設立したきっかけ

就職した人材紹介会社が入社2年ほどで倒産してしまい、他の企業に吸収合併されるタイミングで新しい企業に勤めるか個人事業主となるかの選択に迫られ、個人事業主となることを決意し、それから約一年間フリーランスとして活動したのち起業した。

◆緊急事態宣言発令直後に起業したメリットとデメリット

メリットは「緊急事態宣言下で起業」という話題性が宣伝効果を生んだこと。また、財政政策により企業は融資が受けやすく、起業しやすい状況にあったこと。しかし、新卒の採用が大きく減少してしまったことやオンラインでの信頼関係の構築が難しいことがデメリットとして挙げられる。

◆コロナ禍の就職と就活サロンでの相談内容

就活サロンの特徴は「新卒向けであること」と「有料であること」の二つ。サポートする対価として顧客がお金を払うことで対等な関係でサロンを開くという島田様ご自身のお考えによるもの。より効果的に実績を出すことができるとのこと。

◇社長ご自身について

◆このような進路となった理由

幼い頃からずっと野球をしていて、勉強熱心だったとはあまり言えない少年時代を過ごした。進路を決めるタイミングで、ご両親から海外に行くことを勧められ、留学前に英検2級を取得。また、中国語の力を補うために語学学校で研修を受けた。漠然と他の人と違うことがしたいと考えていた島田様にとって、ご両親の提案は後々それを達成するきっかけとなった。

◆マインドや理念は究極論「一つの宗教」

考え方が変わると、人から技術を学んだとき、使い方や技との相性がわかるようになる。マインドを学ぶ、思考を勉強するという事は早いうちからしていて損はない。これらは自分の思想に共感してくれる人々と共に、目標達成を目指して努めているのだから、究極論、一つの「宗教」のようなものだ。まずは他の色んな考え方に触れてみる。そして共感できた理由を分析して組み合わせれば、偏りのない自分らしい考え方や軸のようなものを作れるはずだ。

◆大事にしていること、強み

まず与えることを考えて行動するようにしている。人やものとの出会いは考え方を変える力があり、そのためにはまず、与えることを考えて行動することが大事。

強みは運がよく、何かハプニングが起きてもいつもいい結果になること。海外への進学は結果として自分のやりたいことにつながる道だったことも、就職先の倒産が起業につながったということも「運が良い」と捉えている。結果が出るまでに時間がかかる。努力するしかない。

◇二十歳のころ

◆二十歳のころに社長が経験した衝撃的な出来事

大学二年生の頃長期休暇を利用して日本に帰ってきた時、久々に高校の頃の友達と飲みに行ったが、彼らと話が合わなくなっていた。自分の周りの環境が大きく変わったことで、「高校の頃の友達はもういないかもしれない」とすら思った。そんな感想を抱くようになるとは想像もしていなかったのが、衝撃的だった。

◆二十歳のころに社長が経験したおかしなエピソード

トルコに行き、空港に降り立つと日本人だというだけで何人もの人に囲まれた。突然フランスパンを渡され、戸惑ったがありがたく受け取るも、持ったままで歩くのは恥ずかしかったため、その場で齧り付いた。人々は「フランスパンはちぎって食べるものだよ」といって笑い出し、その一連の出来事に驚いた。

◆二十歳の私達が今やっておいた方がいいこと

その国の名所を巡るような旅行ではなく、現地の人たちのことを近くに感じられるような旅行をした方がいい。そのような体験から、日本との様々な違いを発見できる。

◆二十歳の私たちに送るメッセージ

とにかく色々なことに挑戦してみて欲しい。二十歳で失敗したところで死ぬことはない。法に触れること以外であればいくら失敗したっていい。自分が何をしたいのかを見つけるためにも触れてみるのが大事だと思う。好きになれるものを見つけることができたなら、大学生のうちにそれをしっかりと勉強しておこう。

終わりに

今回の島田様へのインタビューを通して、「マイナスな出来事をプラスに変換して、すぐに実行する行動力」「客観的に物事を見つめ、必要なものを発見する洞察力」などに長けている方だと感じた。よって、周囲からの人望も厚く、様々な苦難も乗り越えることができるのだと考える。島田様のポジティブな思考やものを見極める能力は、自分を信じて努力し続けるからこそ生まれるのだろう。

知らないことへの好奇心を持ち続け、挑戦し、経験を積み上げて、この二十歳の時間を有意義なものにしていきたい。